

友達に伝えたい思い出の宝箱

漢拏大学校2年

チェ・ウスン

こんにちは。

韓国で日本語を習っているすべての大学生たちに...

現在、大学2年生で進路や未来について色々悩んでいた中、偶然学校で日本語作文コンテストのことで知り勇気を出して志願することにしました。作文を書きながら「友達に伝えておきたい日本」という大きなテーマに果たして私がよく説明できるか心配になったりもしてします。多分、日本という国を直接、経験していない為、怖くてためらう気持ちもあったからです。

それで今回、紹介したいことは、まさに日本の音楽です。私の過去のプロセスに付け加えて、ある一曲を選曲し、私が受けた感動を伝えようと思います。

私が日本語に初めて出会ったのは偶然にテレビから流れてきた音楽、それが外国語として聞く初めての日本語の歌でした。これが私の日本語の始まりでした。メロディーが気に入って、最初は単なる趣味で聞くようになった日本の音楽が、高校の時には日本語学校にも通うようになり、さらに、大学の専攻を決定する大きなきっかけともなりました。日本の歌を初めて聞いたときには一体どんな言葉なのか知りたいと思い、必死に歌詞の意味を調べたり、流れてくる歌に合わせて歌ったりしていた当時の私の姿が思い出されます。その姿を想像したら、「あんな時代もあったな…」と昔の自分に笑ってしまいます。私にとって日本の音楽は多くの日本文化を教えてくれたものでもあります。他の知人の場合、普通ドラマやアニメを通じて日本語と接する人が多いのですが、私の場合はまず日本の音楽を通じてアニメやドラマを知りました。当時は最近のように、インターネット文化が発達していなかったため、日本の音楽の情報を探するため、特にその音楽のタイトルや歌詞を知るために、数多くのサイトを検索するなど、とても大変でした。大変だったからこそ、その情報を見つけた時の喜びは言葉では表現できないものでした。これほど日本の音楽が好きでしたから、そんなにも情熱をもって調べることができたんだと思います。

実は最近、時々その当時の情熱を懐かしく感じるがあります。年を取って行くほど、ある瞬間、情熱が恐怖に変わる自分を発見するからです。高校の時から今まで日本語の勉強を一生懸命にしてきましたが、何か特別な結果が得られず悔やむ日々を送っていました。仕事がない自分自身を憎んで、何か挑戦してみようとしても余計な恐れのために放棄したり、現実とぶつかって簡単に挫折してしまうような状況に陥っていました。そんな中、日本の音楽は一つの希望を見出す光でした。特に日本の音楽に愛着が湧く理由は歌詞の中に希望・明るい未来を指

し示すような表現が多く含まれているからです。本人の経験から作られた歌は他の人を慰めてくれる、そんな音楽だからです。

ここで私が好きな日本の音楽を一つ紹介したいのですが、その歌は今のような時代、簡単に挫折して欲しくないという思いがこもった私にとって非常に大切な曲です。最近、私は果たして何をして生きていかなければならないのかと未来に不安を感じていて、そんな私に共感できるところがたくさんある曲です。それは「Mr.Children」の『くるみ』という曲です。音楽とPVを見直してみると、私の現在の状況とあまりにもよく合っていて涙を流してしまいました。そして再び以前のような熱情と勇気を思い出させてくれた音楽です。

「くるみ」は食べ物の『くるみ(胡桃)』のことを意味しますが、その中には「来る未来」という意味もあり『未来をおそれずに、震える心で受け取ってほしい』というメッセージが込められている曲です。私だけでなく、未来を恐れる人々にぜひ一度聞いてもらいたい曲でもあります。ここで少し歌詞を紹介します。

- 希望の数だけ失望は増える
- それでも明日に胸は震える

私が今していることが幸せなことだろうか？後でも遅くないだろうか？しなくとも後悔はしないか？様々な考えが頭の中を巡っています。でも今回、私は一緒に未来を恐れないという大切なことを知ってほしい思いからこの曲を紹介しました。時間がまた流れれば、今の気持ちを忘れてしまって現実にとどまるかもしれません。しかし、これからは逃げることを拒否します。未来は恐れるのではなく、どんな事が起こるか分からない、期待に胸を弾ませながら想像してみた方がきっと楽しいということはこの歌から学んだからです。

私にとって日本の音楽は日本語を学ぶきっかけを与えてくれたものですし、そして何より未来に対する恐怖を乗り越える助けとなった存在です。私が「友達に伝えておきたい日本」は記憶に残る場所、食べ物ではなく私が経験してきた日本語、日本の音楽との出会いそのもので思い出の「宝箱」のことです。